



玩具人形健康保険組合
理事長 戸所正敏

年頭のご挨拶を申し上げます

皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

今年はい年であります。「巳」の本来の読みは「し」。胎児の形を表した象形文字で、蛇が冬眠から覚めて地上にはい出す姿を表しているとも言われ、「起こる、始まる、定まる」などの意味があるそうです。また、蛇は脱皮をすることから「復活と再生」を連想させ、東日本大震災後の我が国の「復活と再生」が期待されます。

さて、昨年8月に、社会保障・税一体改革関連法が国会で成立し、社会保障財源の安定化に向けて大きな一歩が踏み出されました。現在、医療費の適正化（70歳以上75歳未満の2割自己負担化）や高額療養費の見直しとその財源の確保（受診時定額負担など）などが検討されています。

しかし、平成20年度に高齢者医療制度が創設されて以降、過剰な納付金や支援金の負担等により、健保組合は依然として危機的な財政状況が続いています。平成24年度予算では、約9割の健保組合が赤字を見込み、約4割の健保組合が保険料率を引き上げました。

昨年からいわゆる「団塊の世代」が新たに65歳に達したことが影響し、昨年9月15日現在で全人口の実に約4分の1が65歳以上の高齢者となりました。今後前期高齢者納付金負担が増大すると見込まれます。

さらに大きな問題となっているのは、75歳以上の医療費をまかなうため現役世代が負担する支援金制度の「総報酬割」です。「3分の1報酬割」は平成24年度までの時限措置で部分導入されましたが、平成25年度以降は全面導入が検討されています。導入された場合、被保険者の所得が高い企業の健保組合ほど負担が重くなり、健保組合の負担が約1、100億円増えると言われています。

このように、健保組合は大変厳しい状況下にありますが、環境変化に柔軟に対応しつつ、皆様方のお役に少しでも立てるよう、更なる効率的かつ効果的な事業運営に努める所存です。

年頭にあたり、皆様のますますのご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。